

平和がいちばん

2014年5月15日
第83号

平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会



憲法記念日リレートーク(5・3 交野市イズミヤ前)

効率化を理由にした公的施設の民営化には反対です

ご存じですか？ 現在、市で「美術館」の建設計画が進められています。市内には公立の美術館がありませんから朗報かと耳をそばだてましたが、実態はそうではありません。非常に多くの問題がある計画です。計画では香里ヶ丘中央公園の一部に市内の実業家が美術館を建設し、所蔵の絵画も合わせて市に寄付され、寄贈を受けた市がその後の管理運営を行うことになっています。

まず計画全体の説明が、市民、とりわけ周辺住民になされず事後になっていることは問題です。公園の一部が失われることや景観・交通の問題など住環境が変化することに近隣の市民が丁寧な説明を求めるのは当然です。

次に重要なのは、この美術館が市の文化施策の中での位置づけの問題です。なぜ市で最初になる美術館を中心部ではない場所に造るのか。現在計画中の総合文化会館（仮称）との関連はどうなのか明らかではありません。

そして一番の問題は、この美術館の建設によって他の公的施設（生涯学習市民センターや図書

館）の在り方と運営が大きく変えられるという点です。美術館の維持費は年間7千5百万円と試算され、入場料（200円を想定）収入を差し引く約7千万円が持ち出しになります。この費用を市長は「（他の公的施設の管理運営に）指定管理者制度導入・・・財源確保する」としています。そして今年度の市政運営の基本方針でも指定管理者制度（民営化）を強調しました。美術館設置を機に他の文化施設の民営化もやっけてしまおうとは・・・？

私たちはこの計画は論議不足であり、拙速であると考えます。そしてこの機に市民自治の砦である市民センターや図書館の運営まで民営化することに絶対反対です。その民営化は理念などなく、単に「効率化」だけで説明されています。市民の知的で文化的な活動とその空間を、「効率化」だけを理由に民営化することは、市民と市職員の共同作業を阻害し、市役所と市民の中で知識や技能の蓄積と継承がされず、市全体の知的衰退をもたらします。美術館計画は白紙に戻し、出発点から市民との議論が必要です。

わわわのわ

忘れられない“あの日”が
たくさんあるほど 人は豊かになる

反原発・護憲の小旗を振り続ける

駒木根 淑子さん



5月7日 自宅にて

2011年3月11日の大震災と福島第1原発の事故の後、駒木根さんはいわき市勿来（なこそ）に住む友人が気になり、電話をした。その友人は、危険になればそちらに行くとのことだった。15日の水素爆発直後に避難を決めた友人から「今、京都に向かっている」と、新幹線から連絡があった。雪の降る中、大急ぎで京都駅に駆けつけた彼女に、リックサックに手荷物という友人が「難民の気分よ」と言ったのを忘れられない。友人は、東京に脱出するまでの大変さを話してくれた。まず、タクシーを見つけるのが大変で、水戸の友人に頼み手配してもらったこと。東京まで5万円。新幹線に乗るや眠り込んでしまったことなど。

友人は、その後、駒木根さんの近所のワンルームマンションに居を移し、「しばらくは別荘住まい……」と明るく振舞いながらも、仕事である俳句誌第100号を、最終号になるかもしれないとの思いで取り組んでいた。そんな友人を吉野や京都の花見に連れ出した。今、友人は、比較的放射能の空間線量は低いと言いながら勿来で暮らしている。時々関西で保養したいとのことだが、実現していないのが気になっているという。「福島といえば果物のほか豊かな農産物や海産物に恵まれた土地。そんな故郷と人間の普通の生活が奪われることを目の当たりにした。これが、私が反原発の行動をよちよちと続けることにした直接のきっかけになった」と彼女は語っている。駒木根さんが25年にも及ぶ祖母、母、父の介護生活を終えた7ヶ月後のことだった。

彼女は京都で学生時代を過ごした。「70年安保」の世代。半年ばかり学園封鎖が続き、学外でゼミが行なわれる始末だった。時々デモに参加した。そんな時、京都



YWCA（キリスト教女子青年会）で外国人との交流の機会があり、英文科だった彼女は、YWCAに馴染んでいった。YWCAはキリスト教を基盤とし、“核否定”の思想があり、「安保反対」の会員もいた。彼女は卒業後職員になったが、5年ほどで退職した。「どこか生ぬるく、そこに居心地の良さを感じていた自分がいやになったのかもしれない」と振り返っている。

その頃、ある人物との出会いがあった。ベトナム戦争の報道写真家・ジャーナリストの岡村昭彦さん。その仕事は、被差別部落や三池闘争にはじまり、ベトナム以降、生命倫理、ホスピス、精神病棟の開放と幅広い。彼女は、岡村さんが亡くなる前10年間、京都で続けていた勉強会（ゼミ）に参加した。その頃岡村さんは、長野県安曇野の精神病棟の開放運動にも取り組み、彼女もボランティアとして参加。そこでの人との出会いが、その後の支えになった。その過程で「弱い立場の人に寄り添うこと」を学ぶ。一方、岡村さんが海外から持ち帰る豊富な資料の翻訳に「ワクワクしながら取り組ませてもらった」と言う。

その後、自宅で英語を教えたり、翻訳をしながらの介護が中心の長い、長い生活に入った。「身近な人の介護をやりきり、今は気持ちが軽い。後悔することはない」と語る彼女。学んだことを個人の生活で納得して実践したことが分かる。

彼女は、古文書学習に熱心だ。日本人が江戸から明治への時代をどのようにのり越えたか、そこから今の日本に至る過程を冷徹な目で理解することが大切。これも岡村ゼミで学んだこと。古文書は江戸時代を身近に引き寄せるひとつの“ツール”であるらしい。封建社会の中で庶民がどんなに知恵を発揮して生きてきたかを知るとき、そんな本や資料に出会うとき、とても楽しいと言う。「死ぬまで勉強したい」という彼女は、反原発や平和への思いを強めながら、「おかしいことは、おかしい」という暮らしを貫いている。

取材・記事 おおた幸世

報告

枚方市情報公開審査会が画期的な答申

これから始まる市民による官製談合の構造説明 **柳井 直躬**

私たち市民の有志は第二清掃工場建設を巡る談合事件は、あの中司宏前市長の逮捕時点から、市長個人だけでなく組織的に行われたのではないかと疑っていた。京都府南部の6市町で構成する「城南衛生管理組合」が建設した枚方と同じ性能で同じ規模の清掃工場の約2倍の額で枚方市は建設している。

そこで事件発覚直後、発注額決定の基本になる「設計書」の入手を試みた。しかし談合の犯罪立証のため大阪地検が関係書類を押収していて、枚方市には存在せず果たせなかった。昨年4月、検察から返還されたとの情報で再始動。情報公開請求を行ったが、部分公開とは名ばかりのほとんど墨塗りで（下段<資料>の左側）、わかるのは書類の表題とページ番号だけの書類が提示されたのだった。直ちに竹内市長に対して「異議申し立て」を行った（13年9月6日）。

申し立ての理由は以下の三点。

- ① 枚方市に第三の清掃工場建設が近く予定されているわけでもなく、類似の建築工事発注が行われることもない。
- ② 情報公開請求の目的は市民が行政の公正な執行を検証する目的であること。
- ③ 現在検討されている「市民との協働のまちづくり条例」を阻害する処分である。

この申し立てに対し情報公開審査会は9月から審査を開始、今年4月7日市長に答申。その答申内容は私たちの主張をほとんど認めた画期的なものです。昨年12月に行われた審査会による私たち異議申立人からの意見聴取の会合ではトンチンカンな審査委員の発言もあって、市長が任命し報酬も得ている審査会が真つ当な結論を出すことは望み薄と想着ていましたが、談合事件の資料であり、公正な行政を実現する目的であることを重視したようです。

つい先日の5月7日、入札不調となった第1回と管理棟を加えて発注した第2回の設計書が公開されました。市会議員の手塚さんやおおた幸世さんも立ち会って市役所内で受け取りました。ただし、専門の業者に依頼した見積書やその比較表等は業者のノウハウや企業秘密に当たるとして墨塗りで。公開された文書は裏表印刷の約1100ページ。そのうちの墨塗りは約半分でした。情報公開のコピー料として11,300円を支払い、受け取った書類は重さ約5kg、大型のトートバックに入れると一人で持つのはしんどい量です。

さあ、これからが大変です。膨大な文書をじっくり読み込んでみないと結論は簡単には引き出せませんが、私はそれぞれの部品や材料の単価はそのときの社会情勢に引きずられることが多いので、先に入手している設計事務所作成した棟別の数量書との比較を試みて、数量に水増しが無いか検討してみたいと思っています。市役所に犯罪があったとしたらその時効は何年なのかも気になるどころです。

市民の税金でまかなわれる行政費用、市民が委託した行政行為、その一つ一つに説明責任は付いて回ります。みんなで透明性の高い枚方市政を実現しましょう。気になった疑問点はすぐに市役所の担当課に尋ねてみることで効果は期待できます。平和で豊かな枚方を実現するためには、みんながちょっとずつ汗をかいてみるのが重要だと思っています。



請求していた行政資料を受け取る
（五月七日 市役所内）

資料

審査会答申
最後に公開された文書
ほ 数値が読み
塗 取れる

4月17日 「枚方老人介護者(家族)の会」の市議員との懇談会に出席 会は1983年に、介護に疲れきった一市民の電話相談がきっかけで結成された。介護相談、認知症の家族のサロン「ほっこり」などの取り組みを行っている。ほっこりは、「認知症介護の独特の辛さや、その悩みを少しでも軽く」するために同じ悩みを持つ方がしんどさを分かち合う場として月1回開催される。参加することで介護の悩みが楽になる。認知症の名は広く知られるようになったが、認知症専門医が市内にほとんどいないなど悩みは多い。会は「せめて枚方市民病院に認知症専門医を」と要望している。私の母も要介護4で老健施設に入所している。会の要望は当たり前のこと。後押ししたい。

4月24日 枚方市議会で関西電力大飯原子力発電所の見学会 大飯原発の敷地に入るには、運転免許書など写真付の身分証明書が必要。さらに、カメラ、携帯電話などの持ち込み禁止。金属探知ゲートをくぐって見学コースに入る。ものものしい警戒。原発は危険だと言っているように思えた。見学コースは、テレビや新聞などで見覚えがあるところ。写真をとられて困るものはない。秘密保護法の先取りだ。運転休止中にもかかわらず関電社員500人、協力会社員1500人が働いている。また、構内で再開へ向けてはさまざまな工事が行われている。再開に向けて多額の金をつぎ込むよりも、廃炉と自然エネルギーなど原発からの脱却に向けて金を使うほうが前向きだ。

4月26日 痛みを考える会ペインズ主催の交流会に参加 ペインズは、北河内在住の線維筋痛症の患者さんたちが中心となって「身体的・精神的痛みで苦しんでいる人たちと健常者たちが共に考え支え合う場を創る」ことを目的としている。線維筋痛症の痛みは人によってさまざまだ。「夜も寝られない。痛みで仕事もできない」など。原因不明で、病気を理解している医者が少ないことや、医療補助もなく多額の医療費負担も大きな問題。本人の訴えがなければ、外見では病気かどうかかわからず「怠けもの」と思われることも多いそうだ。難病指定や身体障害者手帳の交付を要望しているが、壁は厚い。私も初めて線維筋痛症を知った。彼らは、まず行政や議員、市民が理解をしてほしいと思っている。5月1日枚方保健所保健予防課長などに要望を行った。幅広い説明会開催に協力したい。

5月3日 憲法記念日リレートーク 今年も交野市イズミヤ前、枚方市駅前、樟葉駅前、寝屋川市駅前で、延べ80名の参加で憲法の大切さを思い思いの言葉で訴えた。安倍首相が、集団的自衛権行使容認し、解釈改憲で憲法9条の骨抜きをしようとする情勢。初参加者の方もふくめて誰もが熱のこもったアピール。世論は改憲反対が多数派。安倍の暴走を止め退陣に追い込もう。

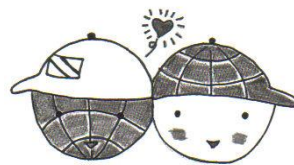
4月21日 4月分議員報酬から223,880円を大阪法務局に供託 私は「政務活動費」の支給申請はこれまで一度もせず、受け取っていません。なお「政務活動費」は毎年、1月・4月・7月・10月の4回支給申請することができて、申請すれば月額7万円が支給されます。



リレートーク (5・3 枚方市駅前)

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)
家高 憲三 (元教育長)
黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)
鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市市議員)



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作

〒573-1197
枚方市禁野本町
1-5-15-106
市民の広場“ひこばえ”
Tel&Fax
072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですが連絡ください